



# 2022 TECHNICAL REPORT

# 目 次

■ 巻頭言 .....	01
専務取締役 技術本部長                      坂井 敦行	
■ 技術レポート	
● 砂防設備等緊急改築事業の概要と検討事例について .....	02
技術本部 河川環境部                      宮本 大	
● 和光技研における三次元測量技術の現状 .....	06
技術本部 空間情報部                      三浦 大	
● 急傾斜地工事の事業損失認定事例 .....	08
技術本部 建築補償部                      横田 貴史	
● 新型コロナウイルス感染症まん延時におけるアンケート調査の実施事例	10
技術本部 水工部                              藤平 雅之	
● 急傾斜地で確認した防空壕跡の調査対策検討事例 .....	12
技術本部 道路構造部                      小岩 晃	
● 土石流堆積工の設計について .....	16
技術本部 河川環境部                      佐々木 美一	
■ 編集後記 .....	20

# 巻 頭 言

foreword



専務取締役 技術本部長

**坂 井 敦 行**

技術士(総合技術監理部門、建設部門)  
MBA(経営管理修士)

平素より弊社に対するご指導ご厚意を賜り、皆様には心より感謝申し上げます。

2020年1月28日、北海道内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されてから3年ほど経過しましたが、未だにその脅威は燻っている状況です。私たちは、これからも手洗い・消毒、マスクの着用といった感染予防に配慮した息苦しい生活を続けなければならないようです。

また、私たちが暮らす北海道では、今年2月に札幌で観測史上最多となる24時間積雪量60cmを記録し、JR札幌駅発着列車が3日間にわたって全面運休するという事態が起こってしまいました。また8月初旬には、線状降水帯がもたらした東北地方北部での記録的大雨に続き、北海道南部でも観測史上最高となる降水量を記録しました。この北海道の大雨は、停滞前線に湿った空気が流れ込み活発な雨雲を次々と発生させるという、線状降水帯を形成するメカニズムに近い気象条件によって生じたとされています。いずれにしても、このような異常気象に関しては、地球温暖化が原因ではないかと考えられています。また地球温暖化は、日本への台風到来回数は減らず一方、線状降水帯の発生回数は増加させる危険性があると推測されています。

北海道は2020年3月、国に先駆けて「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」ことを表明しました。この「ゼロカーボン北海道」を達成すべく、弊社は2022年、ゼロカーボンチャレンジャーであることを北海道に登録しています。建設コンサルタントである私たちは、安全で安心な地域社会を形成するために最良の技術提案を継続すると同時に、温室効果ガスの排出量削減を念頭に置いた新たな“働き方”を心掛けております。

この「技術レポート」は、毎年社内において開催される技術発表会の内容を取りまとめて作成しております。今年度も昨年度同様、リモート技術を駆使して発表者のプレゼンを各社員席に配信し、会議室での密集状態を避けるなど感染予防を徹底することによって発表会を開催いたしました。お手すきの際に、ご一読頂ければ幸いです。

これからも、末永くお客様に信頼される総合建設コンサルタントとして、技術力の向上に邁進していく所存です。関係各位におかれましては、今後ともご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。